

# DoKo ネット



同志社大学理工学会会報 March, 2025  
Vol. 33

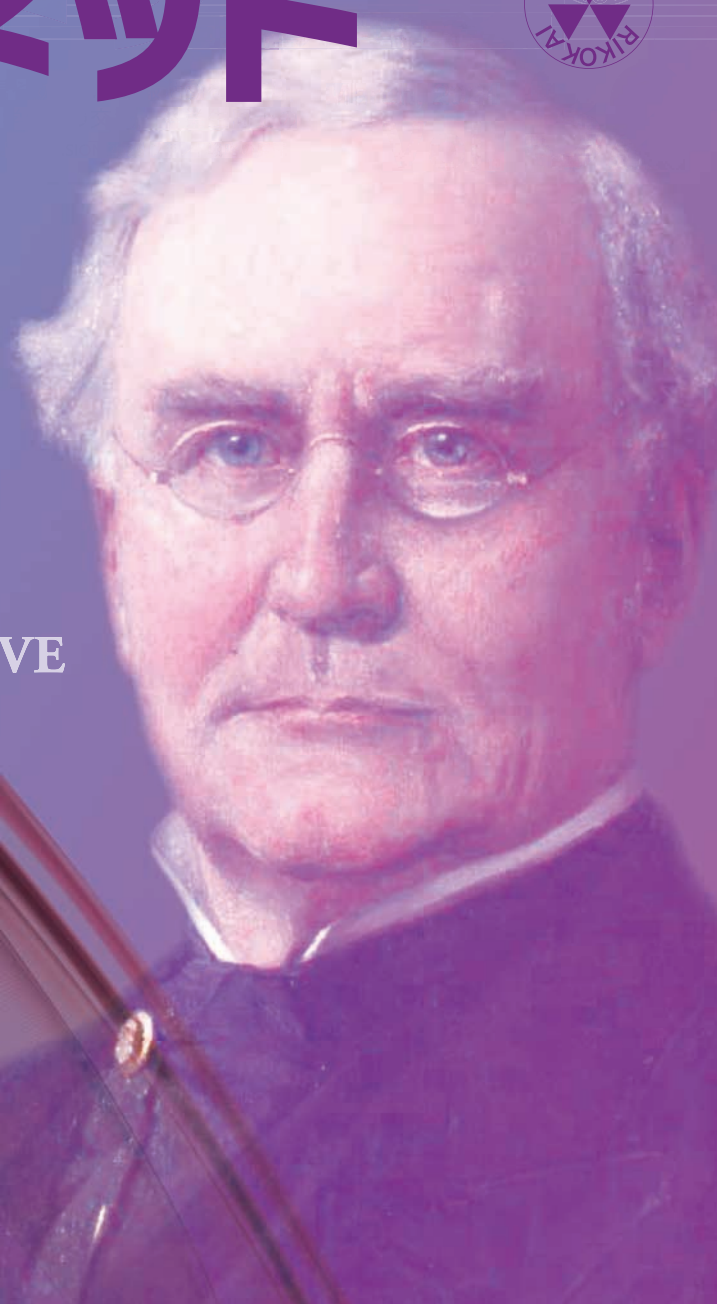
同志社大学理工会（同志社大学理工学部同窓会）は、SNS等を活用した情報発信や効果的な広報活動を実施し、また卒業生が同志社人であることを幸せに感じる大学であり続けるため、在学生との交流、卒業生同士の交流など生涯にわたって絆を深めるための活動を展開していきます。

同志社大学 VISION 2025 ブランド戦略の展開

SEEK THROUGH  
YOUR VOCATION TO SERVE  
GOD AND HUMANITY

天職による神と人類への献身

J.N.ハリス



## TOPICS

小原新学長に聞く  
同志社創立150周年を迎えて——理工会への期待

同志社大学 学長 小原 克博

理工学部創立80周年～ハリスから始まる京田辺～  
ジョナサン・N・ハリスさんとハリス理化学研究所

同志社大学 名誉教授 大鉢 忠

研究紹介  
ナノ繊維の機械的特性評価に向けた取り組み

機械システム工学科 教授 小武内 清貴

電子移動が拓く革新的物質変換  
—MOF触媒から木材内反応まで

機能分子・生命化学科 教授 人見 穰

頑張る同志社  
同志社から宇宙へ！！

機械システム工学科 3年 田川 晴登

機械研究会／電気情報研究会

同窓会だより・理工会だより・卒業生だより  
企業広告（株式会社 いけうち）

## 理工会へようこそ!

理工会会長  
東城 哲朗

(1983年工業化学専攻博士課程修了 山下・田坂ゼミ)



今春、理工学部・理工学研究科をご卒業、修了される皆様、また、同志社大学理工会（理工学部同窓会）の会員になられた皆様に心よりお祝いを申し上げます。おりしも同志社大学理工学部設立80周年、理工会設立30周年を迎えた今、理工学部のルーツに思いを馳せたいと思います。

「ハリスから始まる京田辺」に大きな意味があります。校祖、新島が命懸けで国禁を犯してまで、密出国した動機は、「自由への憧れとその確保」です。アメリカでもっとも自由の伝統が濃厚なニューイングランドの地、ボストン、ビーコンヒルに迎え入れられた稀有の幸運が同志社大学理工学部誕生の源泉です。ここで、体得した「リベラル・アーツ教育」＝心育、体育、知育によってリベラリストを育成するのが新島の生涯にわたる大命題となった訳です。リベラル・アーツ教育は人間形成が重要であるという考え方で技術・研究成果・資格等を取得する前提として、まず人作り、すなわち人間的な基礎工事が大切であるという認識に立つ教育です。その原

点に立ち京都に同志社を作ろうとした新島を認め、真の援助をされたCongregationalist(プロテスタント教派の会衆主義者)の方々の中に、ハリス理化学館を寄贈したJ.N.Harris氏がおられました。詳しくは、本号に大鉢忠名誉教授のご寄稿を頂いておりますので、それをご参照願います。皆様が聞きなれておられる「良心教育」という言葉がそれにあたります。

気候変動や世界規模の天災、新しい感染症の拡大、戦争や国際情勢の過度の緊張、人間の倫理観に多大な影響を及ぼす生成AIの普及等々、将に混迷の現代、人類に突き付けられた諸問題に対峙し、それらを解決し生き抜いて行く基本は人種や国籍を問わず、まず各人の「人間としての心」が肝要です。これからは、私学同志社で教育を受けられた皆さんの活躍される時代であると確信しており、ご活躍を心から祈念申し上げます。

理工会では、同志社大学経済学部、法学部、商学部の同窓会およびスポーツユニオンと互惠互助の関係を強化し、種々の活動を深めて参ります。今年度中にこれらの仲間と校友会東京支部の協力による、「お互いの心を通わす懇親会」を東京で開催することも予定しています。同志社ならではの交流とヒューマン・ネットワーク拡大に注力し、同志社ブランド発展に尽くして参ります。

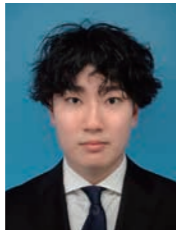
最後に成りますが、会員の皆様の本会へのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 新入会員のみなさまへ

理工会ゼミ同窓会委員長

田中 海翔

(機械工学専攻博士後期課程1年 廣垣・中川ゼミ)



理工学部ならびに理工学研究科を卒業・修了される皆様、この度のご卒業、誠におめでとうございます。また、皆様の理工会へのご入会を心より歓迎申し上げます。皆様は学生生活の中で、Afterコロナへの移行、生成AIの普及、国際情勢の緊張といった急激な社会変化を経験しながら、学びを深めてこられました。こうした変化に柔軟に対応し、さまざまな困難を乗り越えながら培った知識と経験は、今後の人生において大きな糧となることでしょう。

皆様はこれから社会のさまざまな分野でご活躍されることと思います。しかし、社会は複雑で急激に変化しており、多くの課題が山積しております。そして、これらの課題を解決するためのイノベーションを起こすには、優れた人材とその人材同士の「つながり」が何よりも重要です。同志社大学では、「良心＝conscientia(ともに知る)」を掲げた教育が行われており、単なる知識の修得にとどまらず、次の3つの力を養う

ことを教育理念として掲げております。一つ目が、「神とともに知る」＝高い倫理観。二つ目が、「他の分野をともに知る」＝広い視野と知識を獲得する自発的行動力。三つ目が、「人とともに知る」＝異なる価値観を尊重し受け入れる受容力です。これらの「良心」を備えた皆様は、これからの社会でイノベーションを巻き起こす希少な存在だと思えます。とはいえ、挫折や困難に直面し、目先の利益や誘惑に心揺れることもあるかもしれません。そのようなときこそ、良心を持った仲間との「つながり」が大きな力となります。この「つながり」は、異なる知識や視点を共有し、新たな発見や解決策を生み出す原動力となります。また、難題にも立ち向かう勇気を与えてくれるでしょう。理工会は、情報、電気、機械、化学、数理、環境など、多様な分野の知識や視点を持つ同窓生の仲間と、総会や講演会、活性化事業を通じて、気軽に参加・交流できる場です。この場を、ともに学び合い、新たな人脈を築く機会としてぜひ活用してください。皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

末筆ながら、皆様の今後のご活躍とご多幸をお祈り申し上げますとともに、これからの歩みが豊かで実り多いものとなりますよう、心より願っております。

## 同志社創立150周年を迎えて

### ——理工会への期待

同志社大学 学長 小原 克博



2024年に理工学部80周年、また理工会設立30周年を迎え、理工会が、さらなる飛躍・発展の努力を続けておられることに心より敬意を表します。また、日頃より、本学学生、とりわけ、理工学部の学生に対するきめ細かな支援をいただいていることに対し、この場を借りてお礼申し上げます。

約6万人の会員を擁する理工会とその献身的な働きは、本学の「宝」と言ってよいでしょう。私はこれまで同志社校友会の各支部などで、同志社大学のビジョンや取り組むべき課題を語ってきました。東城哲朗・理工会会長が、私のビジョンや理念を深く理解してくださっているのは、私にとって大変心強いことです。本学のポテンシャルを最大限引き出し、本学を教育・研究・社会貢献のどの点においても発展させていくことは学長の務めです。とはいえ、大学単体でできることには限りがあります。しかし、理工会がもつ豊富なヒューマンネットワークが、本学の営みに掛け合わされ、両者がビジョンを共有することができれば、これまで成し遂げることのできなかったことも可能になると信じています。「宝の持ち腐れ」という慣用句がありますが、それとは真逆に「宝」（理工会）を大切にしつつ、その力を生かしていくことが本学の発展につながると思っています。

### 新たな結合と京田辺キャンパスの活性化

私自身は、道なきところに道を開くことを得意としてきた「探索型」の人間です。全国に先駆けて2001年にインターネット授業を開始し、その後、AdobeやAppleなどと連携しながら、最先端のICT教育を実践してきました。また、オンデマンド授業と対面授業とフィールドワークのベストミックスを追求したブレンディッド・ラーニングも開発・実践してきました。私自身の「野生の感性」を存分に生かしながら、学生たちを未知なる世界に誘ってきました。これからは今まで以上に、本学のため、教育・研究・社会貢献の新たな道を開き、文理融合、産学連携、地域連携など、新たな結合（イノベーション）の領域においても力を尽くすことができればと願っています。



います。

2024年7月、同志社大学は京田辺市および日産自動車株式会社と共に、持続可能なまちづくりに向け、電気自動車（EV）を活用したカーボンゼロシティとモビリティサービスを推進していく「3者連携協定」を締結しました。本学の京田辺キャンパスが連携のハブとなって、キャンパス及び地域の活性化を進めていきます。新島は「私たちの学校をもっとも魅力的なものにするためには、ほかの学校に遅れをとらないこと、それどころかさらに先を行くことが、絶対に必要です」と語りました。この先取の志を受け継ぎ、京田辺キャンパスが、未来社会を先取りして見ることのできる「窓」となるよう尽力するつもりです。



### 同志社ルネサンスを目指して

150周年は、同志社にとって新たな船出の時となります。変化の著しい現代世界の荒波の中でも、同志社は「キリスト教主義」「真誠の自由」「自治自立」「良心」「深山大沢」など、新島襄に由来する固有の価値を持って、進むべき進路を見出すことができます。そうした同志社オリジンを「再発見」「再解釈」し、同志社が自らを変革することができれば（それを私はDoshisha Transformation＝DXと呼んでいます）、それは唯一無二の誇りある輝きをもって社会を照らし、次世代社会のための新しい価値を生み出す「同志社ルネサンス」（同志社の再生）をもたらすでしょう。理工会の発展が「同志社ルネサンス」の重要な一部を占めることは言うまでもありません。

### 「深山大沢」としての理工会

最晩年の新島が大学の理想像として頻繁に用いたのが「深山大沢」という言葉です。「深山大沢、龍蛇を生ず」（「龍蛇」は大人物のこと）や「我が校をして深山大沢のごとくになし、小魚も生長せしめ、大魚も自在に発育せしめ」は、その代表的なものです。「深山大沢」を現代的に言い換えれば、「様々な個性を生かし育て、多様性と驚きに満ちた環境」となるでしょう。同志社大学が目指すべき姿を「深山大沢」は端的に示しています。同志社大学は、学生をはじめ、本学に関わる者すべてに新鮮な「驚き」を与え、秘められた力を引き出し、開花させる場であり続ける必要があります。

「深山大沢」の理想は、キャンパスにとどまるものではありません。同志社大学はこれまで約37万人の卒業生を輩出し、各界で活躍する卒業生たちが相互につながり、本学を支えてくれています。世代を超えてつながる理工会もまた「深山大沢」の重要な一部であり、大学との連携の中から、「龍蛇」のごとき人物が輩出されていくことを願っています。

150周年を迎え、また、それを越えてさらに本学が力強い歩みを進めていくために、皆様お一人おひとりのご理解と力添えを心より願う次第です。

## ジョナサン・N・ハリスさんとハリス理化学研究所

同志社大学 名誉教授 大鉢 忠

昨年同志社大学理工学部80周年記念とハリス理化学研究所講演会が開かれ「ハリスから始まる京田辺～ハリス理化学研究所は京田辺の要～」と題して同志社大学神学部の元教授本井康博先生からお話を伺い、懇親会では来賓として理工会の東城哲朗会長からお祝いのご挨拶をいただきました。

同志社でハリスという名前は色々なところで出てきますが、そのハリスさんとはご存知のとおり今出川キャンパスにある重要文化財のハリス理化学館の名前に使われているJ.N.ハリス(1815.11.18-1896.10.18)さんです。昨年理工学部は80周年を迎えましたがハリスさんの10万ドルのご寄付で1889年に出来たハリス理化学校から数えますと135周年でした。10年前の70周年記念には理工会は理工学部と協力して『人間のための科学技術を求めて 同志社大学理工学部の70年』なる70年史を発行しており、「温故知新」この機会にその冊子を開けてみました。

新島襄とJ.N.ハリスのお二人の写真が最初にでており、改めて理工学部のスタートが新島とハリスにある事を再認識いたしました。新島はアーモスト大学の理学士として卒業し、その留学から日本においてキリスト教主義の学校開設を考えました。その準備として、同志社英学校第1期生の下村孝太郎がアメリカでサイエンスを学ぶための留学を世話しました。新島は京田辺キャンパス図書館の名前になっているD.W.ラーネッド先生からコネティカット州ニューロンドンのハリスを紹介され、4年前からウースター工科大学とジョーンズ・ホプキンス大学大学院で学んでいた下村に紹介しました。新島教育の影響を受けていた下村をハリスは大変評価したと思われ10万ドルの寄付に繋がりました。新島宛のハリス書簡からハリスさんのお人柄を知ることができます。新島への1889年7月26日付けの手紙

でScience Hallのための\$3,000の送金の通知と10年前の1879年65歳の時に写したお気に入りの写真を送ってくれています。[写真1]

ハリスさんのお人柄はハリス理科学校の校長となった下村のその後の色々な著作からも知ることが出来ますが、70年史で紹介されている1950年10月18日(命日)に行われたハリス理化学校開設60周年記念式典のJ.G.ヤング神学部教授によって紹介されたハリスさんの言葉からもお人柄を知ることが出来ます。「神と人類に献身する良き人となるためには、忍耐、自分自身にとらわれない事、責任感を強く持つことです。」とつね日頃若者達に語っておられたようで、新島がアメリカで学んだアメリカのプロテスタントキリスト教の会衆派の生き方と



同じものであります。その言葉は理化学館前階段上部の梁に示されています。TO SERVE GOD AND HUMANITY J.N. HARRIS「神と人類への献身」(訳:岩山次太郎元大学長)が筆者はお人柄を示していると感じています。[写真2]

ハリス理化学研究所についてはホームページ <https://harris-riken.doshisha.ac.jp/hr/>

にて詳しく紹介されていますが、工学部時代の理工学研究所の活動として1963年から理工学研究発表会が毎年開催され、工学部は学外との連携を進めるために1992年からハリスさんの名前をつけたハリスフォーラムをスタートさせ、その2つの流れが昨年のハリス理化学研究所講演会となっています。またハリスさんの10万ドルの寄附金の一部がアメリカで基金管理されており、現在でも送金があり1992年からハリス理化学校基金規程により外国人留学生の研究奨励金として支給されています。

このように同志社大学京田辺キャンパスに於いてはハリスの名前は不滅です。今出川キャンパスのハリス理化学館にあるハリスさんの肖像画のレプリカが京田辺キャンパス要の理化学館に掲げられることを希望して肖像画の[写真3]を示します。

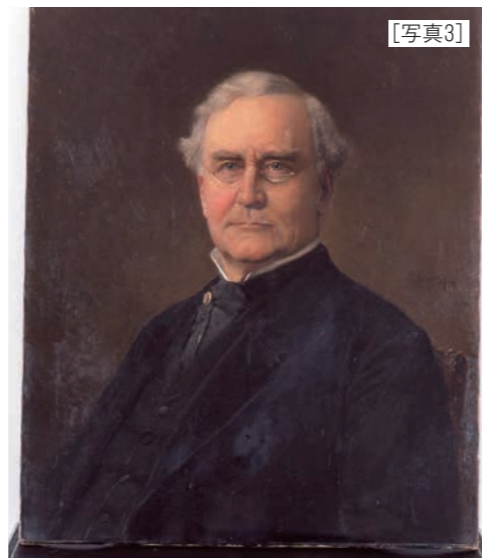


写真1: 1889年7月26日付けの手紙でScience Hallのための\$3,000の送金通知と共に10年前の1879年65歳の時に写したお気に入りの自身の写真を新島に送ってきたその写真。(同志社社史資料室蔵)

写真2: 京田辺キャンパス理化学館前階段上部の梁にあるハリスさんの言葉の後半部分 TO SERVE GOD AND HUMANITY J.N. HARRIS

写真3: 肖像画 1892(明治25)年米国より到着。今出川ハリス理化学館2階正面に飾られている。(同志社社史資料室蔵)

## ナノ繊維の機械的特性評価に向けた取り組み

機械システム工学科 教授

小武内 清貴



2023年4月アメリカのネブラスカ大学リンカーン校 (University of Nebraska, Lincoln, UNL) にて約1年半の在外研究を行ってまいりました。本稿では、私が在外研究にUNLにて従事してまいりました研究内容について、報告したいと思います。私が在外研究に所属してまいりましたProf. Dzenisの主催するAdvanced Composites Laboratory, ACLは、ナノ繊維の機械的特性評価に関して先駆的な業績を挙げており、私が滞在中も、ナノ繊維の製造から評価、応用まで広範囲な研究が活発に実施されてまいりました。

さて、私が所属しております、構造工学研究室では、過去数十年に渡り炭素繊維やガラス繊維といった強化材と母材樹脂とを複合化した繊維強化複合材料 (FRP) の研究を行っております。FRPは従来の金属材料等に比べ、軽量かつ高剛性・高強度なことから自動車や航空機といった輸送機械だけでなく、スポーツ用品などにも広く使用されています。FRPは、繊維と樹脂という特性が大きく異なる材料を複合化しているため、その破壊形態は複雑で、強度や耐久性といった信頼性の確保は、複合材料が抱える課題の一つです。我々の研究室では、これまでにナノ～マイクロ微細な繊維を添加し、母材樹脂を改質することにより、複合材料の衝撃特性や長期耐久性が改善することを報告しています。しかし、ナノ～マイクロ繊維の添加が、複合材料の特性を改善するメカニズムについては、未だ不明な点が多いのが現状です。この理由としては、複合材料中でのナノ～マイクロ繊維の状態を把握することが困難であることや、ナノ～マイクロ繊維単体の機械的特性の把握が困難であることが挙げられます。

このような背景から、ACLでは、ナノ繊維の機械的特性評価手法の開発に従事してまいりました。本報ではACLのPD, Dr. Kartashovと共に開発した炭素繊維を用いたナノ繊維のThree-point stretch試験について紹介したいと思います。本試験の概要を図1に示します。本試験では、台紙に固定した1本のナノ繊維に対し、その中央部に上部から炭素繊維を押し付けることによって、ナノ繊維に対し3点曲げ状の負荷を与える試験になります。詳細は割愛しますが、本試験において、変形中のナノ繊維(図中青破線)には、ほぼ引張変形が生じるようになるため、Three-point stretch試験と名付けました。図2に試験中に試験片および炭素繊維を側面から連続的に観察した結果を示します。図に示す様に、ナノ繊維と炭素繊維とが接触することによって、炭素繊維には曲げ変形が生じます(図

中赤破線)。この曲げ変形から、ナノ繊維に作用した荷重を逆算することが出来ます。また、ナノ繊維の伸び変形(橙破線)についても連続的に測定することで、ナノ繊維単体の荷重-伸び特性を評価することが可能です。従

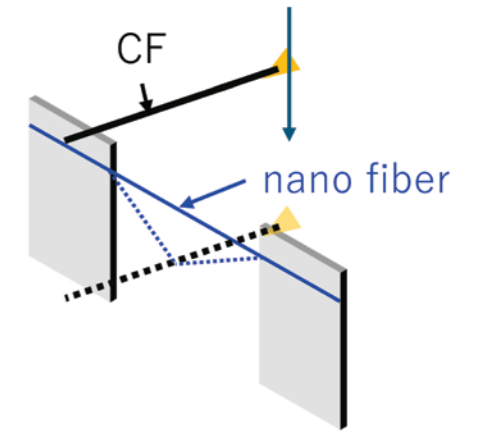


図1 曲げ試験中の炭素繊維とナノ繊維の変型様相

来、ナノ繊維の機械的特性評価には引張試験が用いられてまいりました。しかし、ナノ繊維の引張試験には、非常に微細な荷重( $\mu\text{N}$ )を測定する装置が必要であるだけでなく、装置へのナノ繊維の取付も難しく、1本のナノ繊維を評価するだけで、1時間以上の時間を要してまいりました。一方、我々が開発したThree-point stretch試験では、試験片の取り換えは1分程度で出来、

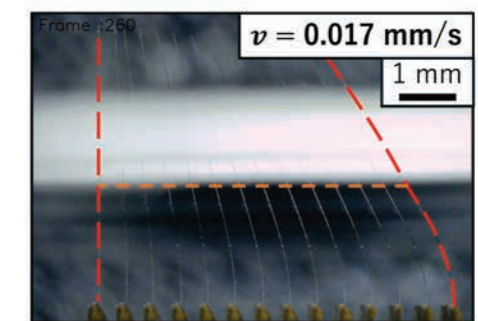


図2 曲げ試験中の炭素繊維とナノ繊維の変型様相

試験の実施も簡便です。また、従来の装置では難しかった高変形速度への応用も容易であります。また、紙面の都合上割愛しましたが、我々はThree-point stretch試験に適用可能な微細荷重センサの開発にも成功し、現在UNLと本学の共同での特許出願に向けて作業してまいりました。またいずれかの機会で紹介できればと思います。

### 謝辞

本研究の共同研究者であるUNLのProf. Yuris Dzenis, Dr. Mikhail Kartashov および同志社大学大窪和也教授に謝意を表す。また、精力的に研究を行ってくれた同志社大学理工学部構造工学研究室の学生、OB&OGに謝意を表す。

## 電子移動が拓く革新的物質変換 ——MOF触媒から木材内反応まで

機能分子・生命化学科 教授

人見 穰



### はじめに

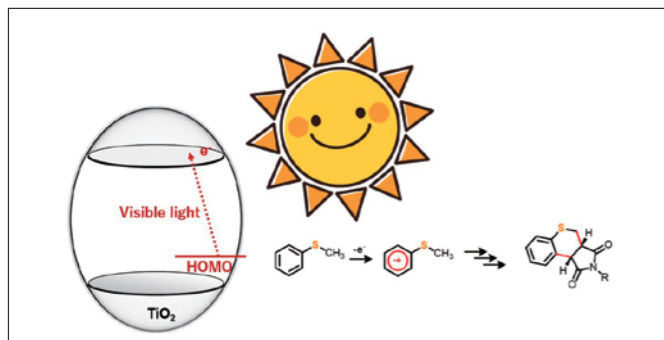
近年、エネルギー変換や環境浄化の領域では、生体内の酸化還元反応に学んだ「電子移動を活用する物質変換」が大きな注目を集めています。私たちの研究グループでは、金属イオンや半導体材料を巧みに利用し、従来の化学プロセスでは困難とされた高効率・高選択的な反応を実現することで、環境負荷の低減と持続可能な社会づくりに貢献することを目指しています。本稿では、その取り組みの一部として以下の4つのトピックスをご紹介します。

### 1. 銅イオンを含むMOFで実現する高活性酸化触媒

銅イオンは生体中の酸化還元酵素（スーパーオキシドジスムターゼやラッカーゼなど）において基質の酸化を司っています。しかし、溶液中の銅(II)イオンは還元反応に伴う構造変化が大きく、酸化力が低いという問題点があります。そこで私たちは、亜鉛イオンやコバルトイオンを完全なテトラヘドラル構造で有するゼオライト型イミダゾレートフレームワーク（ZIF-8やZIF-67）に注目し、これらのサイトを銅(II)イオンで置き換えることで、従来困難とされてきたテトラヘドラル構造の銅サイトを実現しました。この銅置換ZIF粒子は、生体酵素をはるかに凌駕する酸化活性を示すことが分かりました。例えば、銅酵素であるラッカーゼの機能を超えるほどのフェノール類酸化や、高温下でも失活しにくい高い耐久性を示します。また、スーパーオキシドジスムターゼ（SOD）を模倣する活性部位を組み込むことで、活性酸素種（ROS）の消去機能に優れた抗酸化MOF粒子の開発にも成功し、今後はアレルギー緩和や医療分野への応用が期待されています。

### 2. 可視光励起による炭素-炭素結合形成反応

光触媒として広く研究されてきた酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）は、バンドギャップの関係から紫外光領域でしか励起しないのが一般的でした。しかし私たちは、有機化合物とTiO<sub>2</sub>粒子の相互作用を最適化することで、可視光領域でも活性種を生成できる新しい反応系を見いだしています。これにより、二つの炭素



-炭素結合を同時に形成する革新的な合成反応を可視光下で実現しました。可視光応答型の触媒システムを確立することで、太陽光のようにエネルギーコストの低い光源を利用したグリーンケミストリーへの道が開かれます。

### 3. 水分子を酸素源とするエポキシ化反応の開発

通常、エポキシ化反応では過酸化水素や過酸化有機物といった強力な酸化剤を用いるため、安全性や取り扱いの面で課題がありました。そこで私たちは、ホウ素ドーパダイヤモンド（BDD）電極の優れた電極特性に着目し、水分子から直接酸化剤を生成するプロセスを開発しています。具体的には、BDD電極を用いた電解反応により過炭酸イオンを合成し、これをマンガニ錯体と組み合わせることで即座にエポキシ化に利用します。この手法では、外部からの過酸化剤を必要とせず、環境負荷の低い安全安心な有機合成を実現できます。

### 4. 木材内部での有機反応の可能性

最後にご紹介するのは、「木の中で有機化学反応を行う」という、非常にユニークなアプローチです。木材はリグニンやセルロースなどの生体高分子が複雑に絡み合い、多孔質かつ立体的な反応空間を形成しています。もし木材内部の特性を活かして有機反応を制御できれば、新しい機能性材料の創製といった応用につながる可能性があります。現在進行中の研究では、木材の物性や微細構造を深く理解するとともに、そこで起こる化学反応をどう制御するかを探求しています。成果の詳細はまだ公表前ですが、近いうちにホームページなどを通じて発表予定です。将来的には、リグニンの部分分解や高分子材料化などの新技術の創出を目指しています。



↑研究室のホームページ

### おわりに

以上の4トピックスは、いずれも電子移動や光励起といった基礎的な物理・化学現象を活用し、環境調和型かつ高性能な化学プロセスを開拓することを狙いとしています。銅イオンを含むMOFによる高活性酸化触媒や、可視光対応型の炭素-炭素結合形成、新たな電解技術を用いた水由来のエポキシ化、さらには木材内部でのユニークな有機反応など、多彩なアプローチからグリーンケミストリーの未来を切り拓きたいと考えています。今後も基礎研究と応用研究を両輪で進めることで、エネルギー変換・環境浄化だけでなく医療や材料分野など、多方面での波及効果を期待しながら研究を続けていきます。

## 『理系と文系』

インテリジェント情報工学科 教授

芳賀 博英



現在さまざまなところで『理系と文系』の区別がなされています。大学受験がそろそろ視野に入ってくる高校2年生ごろになると、理系クラスと文系クラスに分かれてしまうそうです。受け入れる大学の学部も理系学部と文系学部に分類され、同志社でも理系学部は京田辺、文系学部は今出川に設置されています。でもこの区分は正しいのでしょうか？って言うか、そもそも理系ってなんですか？文系って何なのでしょう？

古代ギリシャやローマでは、自由市民（奴隷ではない、自由意志を持てる住民）の教育内容として『リベラルアーツ』というものがありました。これは『自由意志を持つ人間が持つべき知識や生きるための力を身につけるための諸学』とでも言えるもので、端的にいうと『教養教育』とでも言えるものです。その流れが欧米の大学に受け継がれ、さらには日本にも伝わって来ていました。現在の大学で言われる『パンキョウ（一般教養科目）』です。

このリベラルアーツでは『三学四科』と言われるものが学ばれていました。三学は『文法学・修辞学・論理学』、四科は『算術・幾何学・天文学・音楽』から成ります。すぐに分かるよう

に、大雑把には前者はいわゆる文系、後者は理系の学問です。つまり古代ギリシャ以来、教養人は理系も文系も区別なく学んできた、あるいは必要とされてきたわけです。

私は理工学部にも所属していたので、主に理系の学生さんと接していましたが、接してみると知識の偏りを感じることもありました。理系の学生さんは文系の学問に興味がない人が多くいました。しかしこれでは古代から連綿と伝わる『教養ある人』からは程遠いでしょう。

情報系の分野は、理系と文系が交差するところにあると思います。システムの機能を実現するコンピュータやプログラムは、理系の学問に基づいて設計・製作され、そして動作しています。これらは『How』です。しかし何を、どんなシステムを作るのか、と言う『What』は、理系的な要素だけでは片付きません。それは人間がシステムの要素に入ってくるからです。ですから理系の学生さんも文系の学問に興味を持って学んでもらいたいと思います。そもそも学問に文系や理系といった区別は本来無いはずで

## 天国に召された戸高敏之先生

電気工学科 教授 藤原 耕二



戸高敏之名誉教授は、去る2024年5月13日、享年85歳で天国に召されました。ご逝去の3ヶ月前、長年住み慣れた長岡京から近江八幡にお引越しになられてから体調を崩されたとのことでした。先生は、本学のみならず、私学全体の地位向上・確立を図るため、特に私立大学情報教育協会において手腕を発揮されました。工学部の京田辺キャンパス移転の際にもご尽力され、工期最終段階で、有徳館東館から雨に濡れず講義棟に向かうために通路に屋根を設置することの必要性に気付き業者と交渉・実現されたことは、学生さんや教職員のこと

を常に念頭に置かれていた証拠のように思われます。そのようなご功績について先生ご自身がお話されることはなく、先生のお人柄が伺えます。先生は、親交のあった牧師さんが見舞いにお越しになられた際に信仰告白され、病床で洗礼を受けられました。大学進学に際して、お父様がキリスト教主義に基く本学であれば安心できるとのお考えから、大分から遠く離れた京都の地に先生を送り出されたとのことで、洗礼を受けられた背景には、お父様の影響があったのかも知れません。生前に先生から賜った厳しくも常に筋が通ったご指導・ご鞭撻および多大なるご功績に心から感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り致します。

## 最近の研究室

### インテリジェント情報工学科・情報システムデザイン学科 応用メディア情報研究室

応用メディア情報(大久保)研究室では、ヒトとヒト、ヒトとシステムのコミュニケーションやインタラクションに関する研究に取り組んでいます。2024年度は、大久保雅史教授の指導のもと、学部生10名、博士前期課程学生6名(うち留学生1名)、博士後期課程学生2名が在籍しています。研究テーマは、研究室メンバーそれぞれが興味を持つ分野とコミュニケーションやインタラクションを結びつけたものが中心です。具体的には、発話音声の印象がコミュニケーションの質に及ぼす影響の検証や、VR空間におけるアバター提示方法がパフォーマンスと身体化感覚に及ぼす影響の検証、背景色がアバターに対する印象評価に及ぼす影響の検証など、多岐にわたります。また、これらの研究では、身振り手振りを用いて発話するコミュニケーションロボット「Sota」、3D空間を構築するためのプラットフォーム「Unity」、仮想空間を体験できるデバイス「Meta Quest 3」、指定した内容や設定に基づき文章を生成するAI「ChatGPT」など、最新技術を積極的に活用し、より実践



的で多角的なアプローチで研究を行っています。

毎週のゼミでは、学部生が卒業研究、博士前期課程学生が修士研究の進捗を発表し、研究テーマの模索や実験結果の分析について活発な議論が行われています。自由に意見を交換できる雰囲気の特徴で、時折雑談を交

情報工学専攻 修士課程 1年 **五十嵐 尚輝**



えながら議論の内容を深めています。また、国内外の学会にも積極的に参加しており、今年度はヒューマンインタフェース学会研究会・シンポジウム、日本機械学会設計工学・システム部門後援会、iDECON (International Conference on Design and Concurrent Engineering & Manufacturing Systems Conference)で研究成果を発表しました。他の発表者との交流や質疑応答を通じて、研究課題の発見や新たな視点を得ることで、研究のさらなる発展に繋がっています。

研究活動だけではなく、研究室の親睦を深めるためのイベントも充実しています。今年度のゼミ旅行では、ネスタリゾート神戸を訪れ、ジップラインやバギー、アスレチック、サバイバルゲームなど多彩なアクティビティを楽しみました。特にサバイバルゲームでは、大久保教授のアグレッシブな姿が際立ち、見事な勝利を収めました。夜には雨の中バーベキューを楽しみ、研究室メンバーの普段見られない一面を共有する場となりました。このほかにも、飲み会やゲーム会などを開催しており、コミュニケーションを研究する研究室らしく、自由に活発なコミュニケーションが行われています。

このように、応用メディア情報研究室では、最先端の研究を進めるとともに、メンバー同士の交流を大切にしながら、楽しく意欲的に研究活動を続けています。

#### 先生からのひとこと(大久保雅史)

本研究室では、身体性(embodiment)に基づくインタラクションやコミュニケーションの研究を行っています。そのせいか、学生のコミュニケーション能力も高く、楽しく研究、遊びに勤めています。

電気工学科・電子工学科

### 超音波エレクトロニクス・応用計測研究室

本研究室では、松川真美教授と小山大介教授のもとで、2024年度はポスドク研究員1名、博士前期課程19名、学部生15名が、新たな超音波計測技術の開発と超音波の工学的、医学的応用に重点を置いて、常時20を超えるさまざまな研究を行っています。研究分野毎にグループを構成して研究に取り組んでおり、現在は「バイオ班」、「デバイス班」、「計測班」、「骨班」の4つの班に分かれています。いずれの研究テーマも基本的には超音波などの各種波動を利用したデバイス、計測技術に関連しています。本研究室は国内外の研究者との交流にも力を入れており、多くの企業や研究機関との共同研究が活発に行われています。外部研究者や本研究室のOBの方によるゲスト講演などを通じた交流は月に一回以上行われており、学生にとっては大変貴重な学びの機会となっています。さらに、大学院生は国内外の学会に参加して、口頭やポスターで積極的に発表を行い、研究成果の公開と更なる知識のインプットを行っております。

研究室での主な活動内容としては、博士前期課程の学生



電気電子工学専攻 修士課程 1年 **前田 貴光**



は春学期・秋学期に2回ずつ、学部生は1回ずつ、各自の研究の進捗・成果の発表を行っています。学生間で活発な質疑応答を行うことで、他の班の学生がもつ新しい視点や考え方を共有しています。これらのディスカッションは研究に対するモチベーションアップにつながっています。そして教員からの質問やコメントも参考に、各人が現在行っている研究をさらに進捗させています。また研究内容は多種多様ですが、すべて「超音波」がキーワードですので、皆で超音波に関する知識を日々深め合っています。なお、本研究室に配属された学部4年次生は、春学期の最初に自身の研究テーマを決めてもらうために班分けレポートを作成します。レポート作成を行うにあたり、研究室の院生全員にインタビューをして超音波に関する知識や各研究テーマへの理解を深めます。この機会は、学部生が自身の研究を理解し、より質の高い研究を行うことができる環境にもつながっています。

研究活動以外には、学部生の歓迎会や夏合宿など様々なイベントを行っております。これらのイベントでは、研究室のメンバーの新たな一面が見られ、良いコミュニケーションの場になっています。

#### 先生からのひとこと(松川真美・小山大介)

自立し創造力の高い研究者・エンジニアの育成を目指して、計測・制御から医用応用まで様々な超音波技術の開発を進めています。国内外の発表や海外研究者との交流も多く、国際性の豊かな環境を目指しています。



↑研究室のホームページ

## 最近の研究室

### 機械システム工学科・機械理工学科 機械設計工学研究室

当研究室は、機械系学科で2019年9月に新たに設立した研究室です。前身の「機械要素・トライボロジー」研究室から装い新たに、研究テーマだけでなく研究室名も一新しました。当研究室では、機械工学の中でも産業機械に用いられる機械要素、高機能材料の設計、開発、力学特性やトライボロジー特性、構造評価を研究分野として取り扱っています。

当研究室では、研究開発を通じて社会の発展に貢献することはもちろん、将来の世界をリードできるような技術者、研究者になれる人材の育成にも取り組んでいます。自由に自分を設計できる大学生という恵まれた環境・時間を用いて、全てに学びを意識しつつ幅広い知識を習得し、経験してほしいという理念の下、自身の研究のみにとらわれず、自由闊達な研究活動が行われています。

2024年度は松岡敬教授、中村守正教授のもと博士前期課程2年生12名、1年生15名、学部4年生15名の学生42名と研究員1名が在籍しています。



主な活動内容として、学生は各学期間に複数回進捗報告会と夏に中間研究報告会があり、各自の進捗報告を行っています。報告会では、発表

機械工学専攻 修士課程 1年 **西岡 颯**



者と教員のディスカッションによって研究における不明点や今後の研究方針を明確にするだけでなく、他学生の研究内容を聴くことによる学びの場としての重要な役割も果たしています。また、研究テーマ1つに対して博士課程学生と学部生がペアとなり研究活動を行うため、学部生が研究のノウハウを学びながら意欲的に研究活動に取り組める体制を展開しています。加えて学外での活動では、国内だけに留まらず、国外の学会に参加し、自身の研究成果を発表することで研究のステップアップやモチベーションアップだけでなく、語学スキルを向上させる機会も設けています。当研究室ではこのような活動・取り組みを通して優秀な人材育成に努めています。

研究活動以外では、忘年会やスポーツイベント等を行っています。これらの行事を通して日々の研究活動による疲れをリフレッシュするだけでなく、教員や研究室メンバーでの交流を深めるコミュニケーションの場を設けることに注力しています。

当研究室では、学生に限らず社会人、留学生の方も含め、博士後期課程の学生も募集中です。2024年度以降も様々な取り組みを行っていく予定ですので興味がある方はぜひ機械設計工学研究室をご訪問ください。

#### 先生からのひとこと(松岡敬・中村守正)

当研究室は自由な雰囲気がある一方、能動的姿勢の体得を重視しています。研究テーマはトライボロジー、機械要素設計、材料強度評価など多岐にわたり、また複数の企業との共同研究開発も実施し、良い刺激を受けながら研究を通じて能力を高めています。

機能分子・生命化学科、化学システム創成工学科

### 物理化学研究室

当研究室では、主に「イオン液体」と呼ばれる物質の研究をしています。正イオンと負イオンからなる塩は、例えば食塩に代表されるように、一般的に非常に高い融点を持ちます。しかし塩の中に、何故か融点が著しく低く、室温で液体状態のものが発見されました。それをイオン液体と呼びます。溶液中の分子はまわりに存在する溶媒分子によって常に力をうけます。溶媒の種類を変えたり、温度、圧力を変化させると、溶質溶媒間の相互作用が変化し、その結果、様々な時間スケールで反応分子の電子状態や運動を変化させることになり、反応生成物に大きな違いをもたらします。こうした観点から、イオン液体が、これからの科学を切り開く媒体として着目されています。イオン液体は、使用する目的に応じてその物性を変えることが出来るという意味でデザイナー流体と呼ばれ、材料科学、環境化学、電気化学など様々な分野において、その利用が検討されています。当研究室では、レーザー分光やNMR、電気伝導度などの測定手法と高圧実験技術を中心に、このデザイナー流体の物性を評価したり、新しい反応を開拓しそのメカニズムを解明したり、これま



応用化学専攻 修士課程 1年 **酒巻 うた**



でないモノづくりを行ったりする研究を進めています。

2024年度は木村佳文教授、遠藤太佳嗣教授のもと博士前期課程8名、学部4年生12名の学生20名と、実験支援要員1名のスタッフが在籍しています。主な活動内容として、毎週金曜日の午後から各自の研究の進捗報告を行う報告会と自身の研究に関連する論文を紹介する雑誌会が行われます。教員と学生でディスカッションすることで、現在直面している問題に対するアプローチや今後の方針を検討し、その後の研究に反映させています。研究室でもテーマの多様性があり、各学生が自分の関心に合った研究を深めることができるため、モチベーションの向上にもつながっています。この他にも、学会に参加する機会が多く、自身の研究成果をポスターもしくは口頭で発表し、研究のステップアップやモチベーションアップにつながっています。

研究活動以外には、ソフトボール大会やフットサルなどの行事があります。また、教員も参加する飲み会が定期的開催されており、学生と教員との距離を縮めることができるため、プライベートな相談もできます。また、ハロウィンやクリスマスなどの催し事では、教授手作りのスイーツもあり、毎日楽しく過ごすことが出来ています。

#### 先生からのひとこと(木村佳文・遠藤太佳嗣)

当研究室ではレーザー分光や構造解析などを用いて、イオン液体や帯電液体など新しい液体の研究をおこなっています。装置をみずから組んだり、新しい物質合成にチャレンジしたり多様な研究を進めています。ぜひお立ち寄りください。

## 同志社から宇宙へ！！ 固体燃料と液体酸化剤を用いた ハイブリッドロケット開発に挑む 学生たちの挑戦

機械システム工学科 3年

田川 晴登



DERCロケットサークルはDERC (Doshisha aErospace Rocket & CanSat) のロケット開発を中心に行うチームです。2018年に発足し、「同志社から宇宙へ！」をモットーに掲げ、学生が主体となりモデルロケットとハイブリッドロケットの設計、製造、打ち上げに至る全工程を担いながら、実践的な技術と知識を習得し活動しています。

近年、宇宙産業は市場規模が急速に拡大し、私たちの暮らしや未来に大きな影響を与える可能性を秘めています。

こうした宇宙開発の発展に伴い、学生の段階から宇宙工学に触れ、実践を通じて学ぶことの意義がますます高まっています。しかし、現在の同志社大学には航空宇宙工学を専門に学ぶ学部、学科は存在せず、宇宙を目指す学生が世界に飛び立ちにくい状況にあります。そのような中、発足したチームが我々DERCロケットサークルです。そして現在、日本の学生ロケットチームの中でも特に注目される存在が同志社大学のDERCロケットサークルなのです。

我々が現在開発しているロケットは、大きく2種類に分けられ、一つは、火薬固体燃料を使用したモデルロケット(図1)、もう一つは、固体燃料と液体燃料を組み合わせたハイブリッドロケットです(図2)。

そもそも、学生が開発するロケットは実際に宇宙にペイロー

ド(荷物)を輸送することをミッションとすることは難しいため、それ以外の多種多様な独自ミッションを課し、そのミッションを達成することを目標に打ち上げを行います。例えば、最大到達高度をどれだけ伸ばすことができるかをミッションとするもの、飛行中にデータを測定、撮影することをミッションとするものなどが挙げられます。

現在、DERCロケットサークルでは5機種のモデルロケットと1機種のハイブリッドロケットを開発しています。モデルロケットにおいては、日本トップクラスの技術を誇り、その成果は多方面で高く評価されています。特に昨年度の「種子島ロケットコンテスト」では、エンジンノズルの制御機体、姿勢制御機体が部門優勝と総合優勝(54機体中1位)を達成し、安定した空撮をメインミッションとするカメラ制御機体は川崎重工賞を受賞しました。また、その他の機体も日本初の成果を上げるなど、全国規模の大会出場2年目にして素晴らしい成果を収めることができました。

ハイブリッドロケットは弊団体の開発するもう一つのロケットです。モデルロケットと異なり、液体燃料と固体燃料を燃焼させることで推力を得る強力なエンジンを搭載し、より本格的でスケールの大きなロケットです。JAXAなどの機関が開発するロケットと同様にエンジンの推力を測定する燃焼試験を実施し、一つ一つの部品の強度計算や試験、シミュレーション、評価を受け、あらゆるトラブルに対応できるよう打ち上げのマニュアルを作成することで安全な打ち上げを行います。

DERCロケットサークルは昨年度よりハイブリッドロケット開発に参入し現在も研究開発を行っています。昨年度打ち上げを行ったDERCハイブリッドロケット初号機“Orcinus Orca”はデータ収集をメインミッションに掲げた機体として開発されました。荒波を切り裂きながら

飛行中のモデルロケット



飛行中のモデルロケット



図1 モデルロケット



図2 ハイブリッドロケット

進む海の王者シャチの学名を冠したロケットであり、初の試みであったため様々なトラブルと幾度とない困難の壁を乗り越え打ち上げられました。

ハイブリッドロケットはモデルロケットに比べ積載重量を十分に確保でき、より複雑なミッションが遂行可能です。現在我々は“Orca Pod”という飛行中の無線通信、飛行中の諸データの逐次解析、複数のカメラによる空撮、データロガーの空中投下などをメインミッションとして掲げ、最先端の技術を詰め込んだハイブリッドロケット機体を開発しています。

また、ロケット開発以外の面でもDERCロケットは全国でも類を見ないほど学生が主体となっているチームです。京田辺市と連携を図り、子供向け工作教室の実施や宇宙産業展示会に出展するなど、地域社会に密着しつつ着実に全国で名を轟かせています。組織運営の点においても多くのロケットチームが大学や研究室のプロジェクトとして莫大な資金を元手に開発を行う中、弊団体ではクラウドファンディングやスポンサーの協力をお願いするなど、学生が資金を獲得するために動いています。昨年、理工会様より理工学部支援奨励金をいただきましたこと、感謝申し上げます。

しかし依然として資金面や実験施設の不足は課題です。DERCロケットサークルは、全国でもトップクラスの技術力を持ちながら、打ち上げに必要な施設が整っていません。さらなる



製作の様子



獲得した大会記念賞トロフィー

研究開発を進めるためには、より多くの支援が必要です。そのため、現在ご興味がありご支援をしていただける方を探しています。これからDERCが世界、宇宙の舞台で活躍するためのサポーターとなってみませんか？

これからも、DERCロケットサークルは宇宙を目指して躍進し続けます。皆さまのご支援を心よりお願い申し上げます。

E-Mail : [dercrocket@gmail.com](mailto:dercrocket@gmail.com)

## 機械研究会

機械システム工学科 3年 宮本 恭輔

機械研究会は、文科系公認団体、自然科学ブロックに所属しています。現在の部員数は約60名で、理工学部の機械系学科をはじめとして電気系、情報系の学科や、文化情報学部、経済学部、神学部などの多彩な学部学科の学生が所属しています。活動内容は、もちろん各自による機械の研究ですが、主には自動車技術会主催の学生フォーミュラ日本大会へチームとして出場しています。この大会は年に一度、夏休み期間に愛知スカイエキスポなどの会場にて開催され、国内だけでなく海外含めて凡そ90のチームが参加します。当研究会は日本で初開催の2003年大会から出場しており、国内では歴史の古いチームです。その大会に向けて実際のレーシングカーの企画、開発、製作をし、1つのクルマを作り上げます。具体的には8つの班に分かれてCADやシミュレーションを行ったり、



部品のモデリング、強度解析、流体解析を行ったりして仕様を決定していきます。また性能や重量、製造性、コストなども吟味しながら、各々が自らの担当部分の設計と製作を行います。製作の際には学生自ら金属パイプを溶接したり、旋盤、フライス盤などで金属部材を切削したり、カーボン繊維を樹脂と積層したりする事もします。そのような工程を経て写真のようなクルマを完成させると、今度は走行試験に入ります。学内にある自動車練習場や一般の試走場などを借りてパイロンでコースを作り、走行性能や特性を調べるための走行をします。同時に、選出したドライバーの練習はもちろん、製作したパーツの問題点の洗い出しや、車両のセッティングなども行います。また、同志社小学校で模擬授業や、京田辺市祭りの場などで車両を展示させて頂くといったような社会活動も行っています。なお弊チームは約40社ほどのスポンサー様に支えられて活動しています。多くの企業様と関らせて頂き、学生自ら企業様にアポをとり、訪問させていただき、直接ご支援のお願いをするといったような事も行っています。次回の2025年度大会では、ICV (Internal Combustion engine Vehicle) 部門で最高位を取る事を目標にしていますので、ぜひこれからも、応援をよろしく願います。なお機械研究会の詳細につきましては、こちらをご覧ください(<https://www.d-live.info/club/culture/1175>)。また新たなスポンサー様、および卒業生の皆様からのご寄付も受け付けております。ぜひご検討をお願いします。



電気情報研究会

電気情報研究会(通称:DENXくでんくす)は、1963年に設立された同志社大学公認のサークルで、プログラミングやゲーム制作をはじめとする幅広い情報技術や創作活動を通じて、スキルアップや知識共有を目指しています。

活動内容は非常に多彩で、C言語やPythonを活用したアプリケーション開発、Unityを用いたゲーム制作、機械学習やAI開発といったプログラミング分野から、液晶タブレットを使ったデジタルイラストや3Dモデルの制作、音楽編集ソフト(DAW)による楽曲制作やボーカロイドの編集、さらには基板やセンサーを活用した電子工作まで、多岐にわたります。

これらの活動の中では、競技プログラミングに取り組む会員もおり、AtCoderへの参加や、ICPCといった大会の出場実績があるほか、制作したイラストや音楽はゲームや動画に組み込



む形で他分野と連携したプロジェクトに活用されています。2024年度にはVRフライトアクションゲームも開発され、チームで協力しながら進める集団開発が活発に行われています。

DENXでは初心者向けの講座や勉強会が充実しており、プログラミング未経験者でも初歩から学べる環境が整っています。また、夏合宿や開発会といったイベントを通じて会員同士の交流を深めるとともに、スキル向上を図っています。

さらに、これまでの成果を同志社EVEやコミックマーケットで展示・販売するなど、外部への発信にも力を入れています。

活動の場としては、京田辺キャンパスや今出川キャンパスの部室を拠点とした対面活動に加え、Discordを活用したオンライン活動も積極的に行われており、時間や場所に縛られることなく柔軟な形で創作活動に取り組むことができます。

情報システムデザイン学科 2年 前川 拓斗



キャンパス情報

2024年度 ハリス理化学研究所 研究発表会を開催

11月26日(火)にホテルグランヴィア京都において、2024年度ハリス理化学研究所研究発表会が開催され、約200名の参加がありました。本イベントは、当研究所の研究活動及び成果を広く発信し、同志社大学VISION2025における「創造と共同による研究力の向上」に資することを目的として開催されました。小原克博 学長挨拶、ハリス理化学研究所所長 出口博之 工学部教授による開会挨拶の後、「同志社大学×宇宙」の最前線」と題して、渡辺公貴 生命医科学部教授による基調講演が行われました。続くパネルディスカッションでは、「私は宇宙キャンパスで〇〇学部を作りたい!」をテーマとして、渡辺教授、後藤琢也 副学長・工学部教授、荒渡良 経済学部教授、木谷佳楠 神学部准教授、JAXA 調達部推進課 若生礼奈氏、ハリス理化学研究

所 榎太一助教の6名による活発な議論が展開され、質疑応答が行われました。休憩時間を挟み、会場に分かれて、助成金・部門研究成果発表、ポスター展示、創造科学教育夏期研修報告会が行われ、参加者は最新の研究成果の発表に熱心に耳を傾けていました。助成金・部門研究成果発表では、当研究所の研究助成を受けた計14件の研究について発表が行われました。ポスター展示では、本学教員及び学生による合計18件のポスター発表が行われ、来場者との間で質疑応答や交流が繰り広げられました。創造科学教育夏期研修報告会では、同研修に参加した8名の学生による成果報告が行われ、優れた成果に対して、奨学金及び奨励金が授与されました。最後にハリス理化学研究所研究発表会実行委員長の北岸宏亮 工学部教授による閉会挨拶で締め括られ、盛会のうちに研究発表会が終了しました。(同志社大学広報NO.544 JANUARY2025より抜粋、一部改変)



キャンパス情報

本年度もオープンキャンパスが開催

編集委員会

本年度も2024年7/27(土)および7/28(日)に、京田辺キャンパスにて恒例のオープンキャンパスが開催されました。例年同様、全学的な規模で行われ、京田辺キャンパスでは理工学部全体の説明会や、各学科(系列)



ごとの独自企画、OGの方に学生時代の経験や社会人技術士者としてのエピソードを紹介して頂く座談会のような「サイエンスカフェ」や、研究室公開、研究室見学会、化学実験の体験プログラム、大学院生による研究と学生生活の紹介と質問大会、来訪された個人様との個別相談会、なども行われました。当日は暑い日でしたが天気もよく、京田辺キャンパスには6,846名(予約システム上で確認された人数の方)に来訪頂きました。多くの方々へ理工学部を含め、大学の事を詳しく知って頂ける機会になったと思います。

今年も同志社小学校サイエンスキャンプを開催

機械理工学科 大窪 和也

本年度も恒例の「同志社小学校サイエンスキャンプ」が理工学部の主催にて行われました。この行事はサイエンス好きの同志社小学校の子どもたちが京田辺キャンパスを訪れ、その名の通り、大学が行っている「サイエンスに触れて、サイエンスを体験」する行事であり、コロナ禍の年を除いては、2013年より毎年行われている行事です。本年度は6年生20人、3年生3人と、保護者の方が8人、引率された教員1人の合計32人の方が参加

されました。なお大学側からは8名のアドバイザー学生を用意し、お手伝いもさせていただきました。



写真1

当日は朝の9:30に集合、まずは3班に分かれて理工学部の実験の研究設備を見学です。新材料の強さを測る研究や、自動車エンジン用のCVT変速機の実験の様子を見たり、あるいは流体の流速を測定する風洞設備に入り、風の流れを実体験するなど、恐らく初めての体験をされたはず。その後の昼には単に休憩だけではなく、みんなで大学内の紫苑館の学生食堂に行き、大学生の中に混じって同じメニュー、同じ料金にて大学生の昼食体験をしてもらいました。将来、同志社大学に入学した時の気分を味わってもらえたと思います。



写真2



写真3

その後の午後には、サイエンスを知って実行してもらおう目的で、「ロケットはなぜ飛ぶのか?」の講義を受講してもらい、主に慣性とか作用反作用の法則も勉強してもらいました。その後、これも恒例の「ミニロケット作り」をしてもらいました。ミニロケットとは、紙管の後端に火薬を詰め、それを連続燃焼させて推進力を発生させる模型状のロケットで、「ミニ」とは言え全長は30cm程度あり、これに適切に垂直尾翼を付ければ高さ数十mの高さまで飛翔する事ができ、機能としては十分に「ロケット」と言える工作物です(写真1)。これに小学生の皆さんが各自思い思いの大きさや色の羽根を作って接着し、さらに空気抵抗を減らす先端のキャップも付け、まさにロケットの形に作り



写真4

上げました。その後、この「マイロケット」を持ってキャンパスの西付近にある「ソフトボール場」に移動し、飛翔させる体験をしてもらいました(写真2)。当日の天候は炎天下でしたが体験の際にはテントを用意し、電気点火装置の操作などはアドバイザー学生が行うようにしました。当日の様子は写真3、4の通りです。現役の大学生さんとも話をしながら、まさにサイエンスに触れてもらえたと思います。

物化の集い2024 盛大に開催！

物理化学研究室では4年に1度、校友諸氏の親睦をはかる目的として『物化の集い』を開催しています。コロナの影響もあり2020年は開催延期しましたが、2024年11月、8年ぶりに全国から55名が京都に結集。上野先生・木村先生・遠藤先生・八坂先生をお迎えし、盛大に開催（幹事：保科貴亮 1999年度学部卒、2004年度院修了）しました。久しぶりの旧友との再会を喜び、和み合う環境のなか、上野先生の喜寿をお祝いさせていただきました。また、前回からの開催期間にて清水先生、土橋先生がご逝去され、恩師を偲ぶ一面もございました。



同志社大学物理化学研究室 物化の集い 2024年11月3日 於 ホテル京阪 京都 グランド

岡田 智則

2004年卒 機能分子工学科

今回は2028年を開催予定しておりますが、『土橋先生感謝祭』を2026年秋頃に開催する計画を進めており『研究室の枠を越え、土橋先生とゆかりある皆様で一緒に思い出を語り合う場』にできればと思いますので、次号に改めまして、本紙にて詳細ご案内させていただきます。

☆物理化学研究室ご関係者様へ☆

昨今の個人情報保護強化に伴い『物化の集い』においても、回を重ねるごとに連絡可能な方々が減少しております。そこで、関係者の皆様にご案内ができる連絡体制を改めて整えたく、本紙をご覧いただいております物理化学研究室ご出身の皆様におかれましては、宜しければ下記管理者までご連絡くださりますと大変有難いです。ご協力、何卒宜しくお願い申し上げます。

管理者 岡田 智則

Mail : t.okada@adbunt.co.jp Tel : 070-8592-0961



1977年度工業化学科同窓会報告

伊東 秀記

1981年卒 工業化学科

従来、研究室や個人的な繋がりでプチ同窓会的なものは開催されていたようです。今回、もっと幅広く声をかけて多数集めようという意見が多く、努力したところ参加者が20名近くにりました。そうは言うものの卒業以来会ってない(40数年ぶり)面々なので、誰かわからないという課題がありました。そ



ここで卒業写真集の顔部分を印刷し、名札を作成して対応しました。3年連続Zクラス(再履修)、卒業が怪しいのを先生に助けもらった等々懐かしい昔話で盛り上がりました。かなり好評であったこと、ならびに、遠方(東京、山口、愛知他)からの方も多いため日程が合わないという課題もあり、年2回開催しようとなりました。今回は来年5月にすることも同意されました。一方、連絡先がわからない方も多く、もっと多くの方にお声がけしたいという意見も出ています。各個人の伝手や昔の住所録の宛名に手紙を出したりしましたが、更に工夫をしながら継続していく必要があります。末筆ながら理工会の補助金はありがたく、御礼申し上げます。

竹の子会 創立60周年記念総会のお知らせ

研究室創立60周年を記念し、「噴霧・燃焼工学研究室 竹の子会 創立60周年記念総会」と題して、2025年11月8日(土)京都にて開催予定です。

関係者様のご予定を確保していただきたく、お知らせいたします。

竹の子会総会は5年毎に開催しておりましたが、コロナ禍のため2020年は開催できず、今回は10年ぶりの開催です。関係者各

位に多数ご参加頂きたく、ここにご案内申し上げます。

開催場所や詳細な日時等のご質問がある方や、竹の子会会員名簿のメールアドレス・勤務地等の更新がある方は、竹の子会の松澤・茶木までご連絡いただければ幸いです。

松澤 巧貴 ctwk0548@mail4.doshisha.ac.jp

茶木 寛太 ctwk0504@mail4.doshisha.ac.jp

昭和39年電気工学科卒業60周年記念同期会報告

石原 好之・大鉢 忠

1964年卒 電気工学科

昭和39(1964)年電気工学科卒業120名の同期会は20周年同期会以降5年ごとに開催しております。同期生の石原と大鉢が電気工学科に勤務しており、丁度工学部が田辺町(当時)に統合移転をした1994年が卒業後30周年にあたり、有志の募金により有徳館西館の前に直径10cm程のソメイヨシノ桜2本が植樹されました。

以降関西の同期生と東京からの有志が4月の第一土曜日にお花見会を開催し、2014(平成26)年には、50周年記念の同期会と致しまして、大学京田辺キャンパスでのお花見会と八瀬離宮エクシブでの一泊を企画し、総勢33名が参加しました。今回60周年の集いを母校今出川キャンパス散策と寒梅館7Fのレストランセカンドハウス・ウイルで八田英二総長・理事長をお招きして25名が集まり楽しい2時間を過ごしました。80歳の山を越えた我々、同期会が終了すれば明るいうちに帰宅の準備と、その後の語らいも昔のようにはいきませんでした。卒業後の人生を振り返り、同期生との交流の思い出や、ご自身の卒業後の社会人としての活躍・考え等を文集「同志社電気39会の足跡(仮)」を作成する提案がなされました。理工会活性化事業の同窓会開催補助金をいただくことになり感謝しております。



見会と八瀬離宮エクシブでの一泊を企画し、総勢33名が参加しました。今回60周年の集いを母校今出川キャンパス散策と寒梅館7Fのレストランセカンドハウス・ウイルで八田英二総長・理事長をお招きして25名が集まり楽しい2時間を過ごしました。80歳の山を越えた我々、同期会が終了すれば明るいうちに帰宅の準備と、その後の語らいも昔のようにはいきませんでした。



卒業後の人生を振り返り、同期生との交流の思い出や、ご自身の卒業後の社会人としての活躍・考え等を文集「同志社電気39会の足跡(仮)」を作成する提案がなされました。理工会活性化事業の同窓会開催補助金をいただくことになり感謝しております。

女子会 留学生会コラボ企画バスツアー

女子会、および留学生会では、2025年6月7日に両者がコラボレーション企画をしたバスツアーを行います。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。詳細につきましては、下記にお問合せ下さい。

今年は滋賀県近江八幡市へのバスツアーを実施します。歴史ある街並みを歩いたり、人気のスポットを楽しんだり。近江牛のランチもお楽しみに！

Advertisement for a bus tour. It features a central yellow circle with the text '女子会 留学生会 コラボ企画 バスツアー 6月7日(土)'. Below it are QR codes for registration and contact information: 'アドレス登録' and '詳細はメール、Lineでお知らせします。事前にメールアドレス登録。Lineのお友達追加をお願いします!'.

私のランチを紹介

機械理工学科 4年 山本 悠翔

現在の京田辺キャンパスの学生食堂で食べる事のできる料理の例として、私の昼ごはんを紹介します。昼休みには学生の多くがこの紫苑館にある生協食堂でお昼ごはんを食べます。私もその中の一人です。写真の料理は、私がよく食べる定食メニューの料理です。白ご飯と味噌カツがあって、お味噌汁とサラダが副食になります。これでかなり満腹になります。価格は500円程度です。京田辺キャンパスには他にも麺類や丼物、和食などを食べる事が出来る学生食堂があり、勉強だけではなくお昼ご飯でも、学生生活をエンジョイしています。



## 理工会だより

### 東京支部

東京支部 幹事 片桐 陽 (1967年電気工学科卒業 岩本ゼミ)



2024年、東京支部は新型コロナウイルス蔓延以降中断していた活動を漸く再開することができました。

10月25日に理工学部機能分子・生命科学科の北岸宏亮教授を東京キャンパスにお迎えし、「同志社発で世界初！一酸化炭素中毒の治療薬の開発」と題した講演をお願いしました。

ほぼ6年ぶりの講演会には理工会の東城会長、長光副会長、小野事務局長はじめ24名が参加。今回は東京校友会の他学部の方々にもお知らせしたので、8名の校友会会員にもお集まりいただきました。



北岸教授の熱演もありましたが、世界初の発明やその事業化について、他学部の参加者から色々アドバイスなどもいただくことができました。講演後の懇親会では、更に今後の事業計画などについて、北岸教授との話し合いも活発に進み大変中身の濃い講演会になったように思います。

2025年は、6年間のブランクで途絶えていた支部会員とのコミュニケーションの回復に努め、集う機会を増やしていきたいと考えています。

東京支部設立当初の幹事も老齢化が進んでいますが、新たに女性幹事も増えたことから、活性化に向けた動きができるのではないかと期待しています。



皆様からもぜひ支部活動に協力したいとか、こんな活動を希望したいと思われる方はぜひ下記アドレスまでご連絡いただけますよう、お願いいたします。

東京支部E-Mail: drk-tokyo@doshisha-rikokai.jp

### 愛知支部

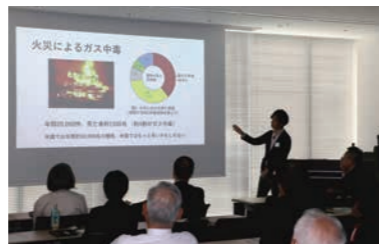
愛知支部 支部長 加山 順一郎 (1997年化学工学科卒業 中島ゼミ)

多くの皆さまのご協力をいただき、令和6年6月に理工会愛知支部の設立総会を開催することができました。

おかげさまで、無事に設立総会を終えることができ、今後の活動に向けた力強い一歩を踏み出すことができました。これもひとえに、皆様のご協力とご支援の賜物と存じております。誠にありがとうございます。



皆様のご協力とご支援の賜物と存じております。誠にありがとうございます。



皆様のご意見やご提案をもとに、理工会はさらなる発展を目指し、活動を進めてまいります。

今後の予定としては、令和7年2月に研修会を令和7年11月に定時総会を開催する予定です。

理系の知識や技術を活用して社会課題を解決することは非常に重要であり、理工会が様々な分野で活躍される方が集まる場となり、積極的に交流することで、社会に対して大きな貢献ができるはずと考えております。

現在、理工会愛知支部は43名のご登録をいただき、20代30代の若手の方も多く在籍していただいております。

理工会愛知支部に参加することで、各分野でご活躍の方々との交流や意見交換ができ、最新の情報も入手することができます。



その一方、堅苦しくないサラッとした会を目指しておりますので愛知県に関わりのある卒業生、その他関係者がいらっしやいましたら、事務局までご連絡いただければ幸いです。

第一歩を踏み出したばかりのサラッとした理工会愛知支部でございますが、今後ともよろしくお願いたします。

事務局長 金井 邦剛  
TEL : 090-1861-6712  
愛知支部E-Mail : k-kanai@hks-speed.jp

### ゼミ会

幹事 江草 隆志 (1993年機械工学科卒業 藤本・千田ゼミ)

ゼミ同窓会委員会は、各研究室に在籍するマスターから毎年選ばれるゼミ同窓会委員の助けを得て、卒業生と大学をつなぐ活動を企画・実施しています。

主要事業として、将来の同窓会会員である現役学生の関心事である就職活動に焦点をあて、支援活動を通じて、つながりを創出しています。

2024年6月27日(木)に第5回就職懇談会を開催いたしました。例年は土日開催でしたが今年度は学生諸氏が参加しやすいよう平日開催しました。初めにOBの佐々木悠斗氏から「インターンシップ・就職活動のリアル」を講演し、続いて就職活動を終えられたばかりのM2の東野祐貴氏から就職活動での反省点やアドバイスなどを紹介いただきました。このようなセミナーのほかキャリア相談、ES、技術プレゼン資料の添削、模擬面接練習といった個別の支援も実施



ほかキャリア相談、ES、技術プレゼン資料の添削、模擬面接練習といった個別の支援も実施

## 理工会だより

していますので、興味を持たれた方は、事務局 (E-mail : drk@doshisha-rikokai.jp) までご連絡ください。

今年度は実施に至りませんでした。前年度に開始した留学生向けの就活支援につきましても引き続き企画・実施を検討してまいります。

次年度以降も、将来のOB・OGとなる皆様が理工会につながり続け、各種事業に参画していただけるきっかけとなるような事業を企画・開催してまいりますので、ご意見ご要望をお寄せください。

### 技術士会

同志社技術士会 副会長 矢部 克明 (1971年化学工学科卒業 田中ゼミ)

「同志社技術士会」は、同志社大学出身の技術士・技術士補を中心に構成される集まりです。2012(平成24)年、「良心技術者の育成」と、会員相互間の親睦と情報交換、知識の向上や母校及び社会への貢献などを目的に設立されました。技術士事務所を開業している方、各種企業または公的機関に所属している方、技術コンサルタントとして活躍される方など、2024(令和6)年現在約50名が所属し、本学出身技術士の人数拡大を目指してセミナーや講義を開催しています。

設立13年目となる今年は「増やそう 同志社大学出身の技術者を」をスローガンに、6月1日に理工会の協力を得てオンラインセミナーを開催し、技術士試験制度の概要や資格取得後のメリットについて、4名のOBの実体験をもとに説明しました。加えて11月2日には、理工会総会・リユニオン講演会に引き続いて、技術士資格取得を目的とした出前講座を京田辺キャンパスにて開講しました。当講座では、前田技術士による「技術士制度と技術者に求められる資質・能力」についての説明、また「事例紹介」として小田技術士による「相反する条件における課題達成事例」、そして今野技術士による「体験に基づく問題解決ストーリーの解説」の講義を行い、リアルとオンライン合わせて、約30名の参加を得ることができた次第です。

同志社大学及び大学院への貢献策の一環として、本年も5月~6月上旬に技術士一次試験セミナー、また11月の同志社クローバー祭・理工会総会に合わせて出前講座の開講を予定しております。新規の入会を常に歓迎していますので、ご興味をお持ちになった方がおられましたら、是非一度当会までお問い合わせください。

facebook : <https://www.facebook.com/同志社技術士会-497533544081200/>  
2024年に開催したセミナー↓

開催日	内容
1月27日	「2.業務遂行能力 2.6 国際的な適応力」 欧州駐在、iso制定WGメンバーなどの経験から
3月9日	「2.業務遂行能力 2.2 解決策のデザインおよび開発」 省エネルギーデータセンターの開発
5月18日	「2.業務遂行能力 2.8 リーダーシップについて」 「インセンティブとは」「インセンティブの分類」
6月1日	技術士一次試験セミナー 制度について 技術士資格を取得して 3事例
7月20日	自己紹介と合格体験 舞洲工場の運営を通して
9月14日	「3.行動原則 3.1 社会の保全・持続(サステナビリティ、D&I)」 豊島不法投棄の対応を通して
11月2日	出前講座 技術士制度と技術者に求められる資質・能力
〃	事例紹介 相反する条件における課題達成事例 体験に基づく問題解決ストーリーの解説

### 女子会

幹事 三木 真湖 (1994年工業化学専攻修士課程修了 山下・田坂ゼミ)

女子会は2015年度に発足した会で、『小さな繋がりを濃い和に』をモットーに活動しています。

今年度は7月27日に、東映太秦映画村へのお出かけ企画を留学生会とのコラボで実施し、OG・留学生・現役学生あわせて24名の方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



当日は40℃を超えているのでは?というほどの酷暑ではありませんが、江戸の街並みやからくり忍者屋敷を楽しんだだけでなく、仮面ライダー・スーパー戦隊ヒストリーやエヴァンゲリオン京都基地も体験しました。果敢にお化け屋敷に挑んだ参加者もいました。

また、理工会関係者の伝手で特別のご配慮を賜りお待さま(俳優さん)にご案内いただいた東映撮影所では、時代劇のセット内で実際に殺陣をご指南いただいたり、TVでよくお見掛けする俳優Nさんと遭遇したりと非日常を楽しみました。



女子会は今年10周年を迎えました。女子会がきっかけとなって新たな親交が生まれたり、年に一度の女子会行事に毎年のご参加いただき交流を深めてくださっている方もおられます。幹事一同、大変うれしく思っています。

次回は6月初旬に滋賀県近江八幡市への日帰りバスツアーを企画しています。次回も留学生会とのコラボ企画となっております。ぜひお友達やご家族をお誘いあわせの上、積極的にご参加ください。

女子会E-Mail: drk-joshi@doshisha-rikokai.jp

### 留学生会

副会長 篠木 俊雄 (1988年機械工学専攻修士課程修了 木枝ゼミ)

留学生会では、同志社大学が目指すグローバルで多様性を有する人物養成に微力ながら貢献すべく、留学生同士の繋がりをや日本人学生・卒業生との親睦を深める様々なイベントを企画・試行しております。さらにこれらは、縦割りの枠組みに囚われず、女子会や博士情報交換会など他事業とコラボすることで、横との連携も積極的に推



## 理工会だより

進しております。

この1年間、「茶道(抹茶)体験(2024年2月24日)」、「東映太秦映画村散策(2024年7月27日:女子会とコラボ)」、「秋学期入学式に留学生会案内パンフレット配布(2024年9月21日)」、「BBQ懇親会(2024年10月19日:博士情報交換会とコラボ)」、「生け花体験(2024年12月19日)」を開催しました。どのイベントも堅苦しいものではなく、特に留学生の方々にとっては、日本文化と接する、また日本を知る良い機会になったのではないかと考えております。



今後、留学生会は、理工学部/理工学研究科に入学されてくる留学生の方々とのコンタクトを大切にしながら、何事も気軽に相談できる窓口的な役割を担うことができないかと考えております。勿論、これまでと同様に、留学生と日本人学生ならびに卒業生

との交流を促進すべく、様々な手段を模索していきたいと考えております。皆様のご支援を賜れば幸甚に存じます。また、ご意見およびご要望がございましたら、是非とも理工会事務局まで連絡いただければ幸いです。

### 博士情報交換会

幹事 田中 海翔  
(2024年機械工学専攻修士課程修了 青山・廣垣ゼミ)

近年、社会的な課題解決には深い専門知識に加え、幅広い視野や知識が求められています。そのため、博士後期課程を修了し、高度な専門知識を有する人材の重要性はますます高まっています。博士情報交換会は、博士後期課程の学生や進学を目指す博士前期課程の学生が一堂に会し、研究や進学、生活に関して専攻の枠を超えて自由に話し合う場として開催されています。

2024年度は10月19日に留学生会と共催し、計35名が参加する盛況な懇親会を実施しました。はじめに、学校生活や研究



における悩みをテーマとしたグループディスカッションを行い、その後、城陽市のLOGOS LANDに移動して飲み放題付きのBBQを楽しみました。あいにくの天候ではありまし

たが、参加者同士が文化を超えて交流を深める貴重な機会となり、博士後期課程への進学を考える契機にもなったと感じています。

一方で、参加者の専攻に偏りが見られたことや、博士後期課程学生の参加が少数にとどまったことなど、今後の課題も浮き彫りとなりました。幅広い視野や知識を身につけるためには、専攻を超えた学生間の交流が不可欠ですが、現状では十分に活発とは言えません。このような分野横断的な交流をさらに促進するために、博士後期課程の学生はけん引役として貢献できると考えております。

そこで、来年度以降は従来の懇親会を継続するとともに、博士後期課程学生の横のつながりを強化する新たな機会を設ける予定です。また、卒業後も分野を超えた交流が継続できるよう、現役学生と卒業生の縦のつながりを構築することを目指してまいります。



### ゴルフ会

幹事 大枝 正人 (1979年機械工学専攻修士課程修了 新井ゼミ)

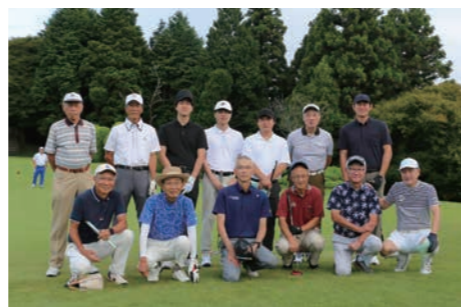
2024年9月27日(金) 茨木高原カンツリー倶楽部において、第6回会長杯争奪ゴルフコンペが開催されました。所期の目的「世代間交流を図る」達成のため、現役の学生さんを含む若者層を動員しようと考え、早期からホームページにて参加者募集を行いました。実際には、口コミで集まった学生4名と常連メンバー総勢13名の参加者に

留まりました。しかし、参加者からは、「ゴルフが楽しかった」「先輩から親切にご指導頂き、感謝しかない」といったお言葉を頂戴しました。参加したくても、道具がない、行くための車の

段取りが難しいなど、若い方の悩みがあるようです。今後は、ゴルフ初心者でも気軽に参加できる、『ゴルフの登竜門』として理工会ゴルフ大会を続けて参る所存です。次回開催時期は9月を予定していますので、詳細決定次第、ホームページにてご案内いたします。

また、本戦前に、練習会の開催も考えていますので、ご指導頂ける方がおられましたら、理工会までお申し出頂きますら幸いです。

お知らせ:同志社大学理工会(理工学部同窓会)HP  
<https://www.doshisha-rikokai.jp/topics/>



## 卒業生だより

### 支えに感謝し、成長を追い求めて

大学生活を少し振り返ると、私は卒業に必要な単位を取得するため、4年生でも講義を受講しながら、大学院入試の勉強や研究活動に取り組みました。大学院生活では、友人と夜遅くまで勉強し、修士論文の作成に苦労したことを今でも鮮明に覚えています。

大学院を卒業してから4年が経ちましたが、その間にも多くの困難に直面しました。2021年、日本IBMの社風や働き方に惹かれて入社しましたが、同年9月に会社が分社化し、新たに設立された会社へ突然移籍することになりました。

入社前に説明はなく、急な変化ではありましたが、尊敬できる上司と一緒に仕事を進めるメンバーにも恵まれ、若手でも挑戦できる環境が整っていたおかげで、積極的に仕事へ取り組むことができました。

お客様からの厳しい要望と会社から提案できることが一致せず板挟みになることや、期日までに契約を取りきるために仕事は夜遅くまで続くこともありましたが、新しい発見や学びが



キンドリルジャパン株式会社  
インダストリー統括 流通通信メディア事業本部 営業 川中 佑哉  
(2021年応用化学専攻修士課程修了 竹中ゼミ)

常にあったため、不思議と仕事がつらいとは感じず、むしろ楽しく取り組みました。

苦労した分だけ成長できた4年間でした。お客様への説明資料の作成から、営業としてチームをリードするために大事なことを、たくさんを教えてくださいました。

ただ、多くの方からアドバイスをいただいても、それを行動に移せず、習慣化できないことに悩むこともあります。これまで「最後はなんとかかな」と思いながら生きてきましたが、それは周囲の方々が支えてくださっていたおかげだと、恥ずかしながら最近になって気づきました。

28年間で形成された性格を変えることは簡単ではありませんが、感謝の気持ちを忘れずに、これからも成長することや変化することを追い求め、常に挑戦し続けたいと思います。この場を借りて、日頃から支えてくださっている皆さまに心より感謝申し上げます。

また、このような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。

同志社大学に関係するすべての方々のご健勝をお祈り申し上げます。

### 2024年度 総会・リユニオン・講演会 開催報告

今年度は総会・講演会をクローバー祭2024と同日の2024年11月2日(土)に京田辺キャンパスにて開催致しました。天候が悪く、クローバー祭の開始時刻が延期されるハプニングもありましたが、他学部同窓会の会長、副理事長様にもご出席いただき、理工会の全イベントは予定通り行うことが出来ました。

総会では全ての決議が満場一致で承認されました。その後の公開講演会では、「同志社から宇宙へ!! 固体燃料と液体酸化剤を用いたハイブリットロケット開発に挑む学生たちの挑戦」と題して、本学任意団体「DERCロケットサークル」所属の理工学部機械システム工学科3回生の田川晴登氏ほか2名の理工学部在学学生に、学生主体のロケット開発の苦労や意義、種子島ロケットコンテストで大会記念賞を受賞した姿勢制御機体の革新的な技術紹介など、熱意のこもった素晴らしいご講演をして頂きました。

懇親会では参加者同士が協力してのゲーム企画もあり、和気あいあいとした雰囲気の中、世代を超えて親睦を深めることができました。

今後もより多くのOB/OGが理工会活動にご参加いただけるよう、有意義な企画を計画出来ればと考えております。

人 事	
新任 (2025年度に新たに着任される予定の教員)	
情報システムデザイン工学科	小比賀 亮仁 准教授(有期)
電気工学科	田中 洋平 助教
電子工学科	中島 由人 助教(有期)
数理システム学科	阿部 健 教授
退職 (2024年度で退職される教員)	
インテリジェント情報工学科	芳賀 博英 教授 ※名誉教授
電子工学科	田中 智之 助教 ※2024年9月退職

### 大学による卒業生情報(名簿)一括管理のお知らせ

理工会では数年おきに会員調査を行い、会員皆様の個人情報管理を慎重に行って参りましたが、大学からの指導により卒業生情報を一括管理することとなり、理工会で管理してきた情報を、2022年3月31日付で校友課に提出し、大学のD00ネットによる一元化管理に移行しています。

従って、理工会のホームページから住所や勤務先など情報を変更される場合も、D00ネットに接続されますので、ご承知おきください。

理工会(理工学部同窓会)事務局

住所 〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3  
同志社大学理工学部内 小野裕子

TEL 0774-65-6219 FAX 0774-65-6850

E-mail drk@doshisha-rikokai.jp

ホームページ <https://www.doshisha-rikokai.jp/>

2025年 11月1日(土)

2025年度 理工会 総会・リユニオン

京田辺キャンパス (同志社クローバー祭と同日開催)

※日程を変更させていただく場合がございます。  
最新の情報は、本会ホームページ(<https://www.doshisha-rikokai.jp/>)をご確認ください。

同志社大学理工会会報 DoKoネット33号 2025年3月10日発行

発行者 ▶同志社大学理工会 会長 東城哲朗  
編集委員 ▶大窪和也・青山栄一・豊福英雄・佐々木悠斗・大枝正人  
印刷 ▶大枝印刷株式会社 TEL:06-6381-3395

※QRコードは、(株)デンソーウェアの登録商標です。



# 霧で、 未来をキリ拓け!

選ばれるのは、ニッチトップの技術だから。

- ✓ 世の中のあらゆるモノの品質・生産量・省エネ・生産環境に深く関わっているいけうちの「霧」。
- ✓ 空気や水、気候、食糧問題などSDGsにも貢献するいけうちの「霧」。
- ✓ 身近なクールスポットやアトラクション、壮大な演出で笑顔や感動を生み出す「心に届く霧」への進化。

「人の足跡を踏むな」の社是の下、仕事のやりがいだけでなく、働き方もアップデート。

盤石な経営基盤(長年にわたる優良申告法人、健康経営優良法人認定)と充実の年間休日と福利厚生で安心して働いていただける環境です。新しい挑戦や取組を続けるため、当社に興味を持っていただける方、当社で働いて一緒に成長してくれる方は是非以下のサイトをご覧ください。

詳しくは公式サイトをチェック



公式チャンネル



事例紹介



'26卒の方はこちらから  
エントリーしてください▶

